

2016年度事業計画

京都橘学園は、長期ビジョン(2015～2022)および中期プラン(2015～2018)で構成する「第1次マスタープラン」の取り組みを進めつつあり、2016年度は2年目になります。

2016年度、大学では学部学科再編として、救急救命学科の開設や健康科学部心理学科などの定員増を実施します。キャンパスの計画的整備も行います。

中学校・高等学校では、ブラッシュアッププログラムに基づく施設整備を進めます。

学園として、大学と中学校・高等学校が共に使えるサッカーフィールドを備えたグラウンドを整備します。また、新規事業にも着手します。

大学、中学校・高等学校ともマスタープランに基づく様々な教学改革を進めるとともに、2017年度からの改革も準備します。

1. 大学

(1)時代の変化に対応する学部学科再編

- ・2017年度に開設予定の国際英語学部(仮称)、発達教育学部(仮称)、現代ビジネス研究科(仮称)などの学部学科・大学院再編および、大学の収容定員変更に向けた準備を行う。
- ・2018年度以降の学部学科等の編成について検討を行い、必要な準備を行う。

(2)教学改革の推進

①キャリア教育の充実

- ・「総合基礎力」養成に向けたカリキュラム改革を行い、アクティブ・ラーニング、地域志向教育に取り組む。
- ・公務員試験合格支援の講座を充実する。
- ・実践的英語技能を習得させるための教育を充実する。

②各学部での教学改革

<文学部・大学院文学研究科>

- ・学生の能動性、積極性を伸ばし、教育の質を向上する教育方法として、アクティブ・ラーニングやPBL、海外研修などを採用し実施する。
- ・総合基礎力養成のための多読システムなどを開発し実施する。

<現代ビジネス学部・大学院文化政策学研究科>

- ・キャリア意識の醸成、様々なアクティブ・ラーニング、海外研修など達成経験プログラムを強化する。
- ・グローバル企業への就職や公務員試験合格者の数値目標を学部として設定し、その実現のための施策を具体化する。
- ・医療機関への就職をめざすため診療情報管理士課程での教育や医療関係資格取得の支援を行う。
- ・グローバル人材養成のために地域公共政策士資格の取得を推進すると共に、学生のキャリア教育の充実を図る。

<人間発達学部および教職保育職支援関係>

- ・英語コミュニケーション学科の就職率を向上させるために、多文化理解プログラムなどを充実する。
- ・児童教育学科の就職率の向上および中学校・高等学校教員採用実績の向上を図るため、教職保育職支援室を中心とした採用試験受験支援の強化などを行う。
- ・教職保育職支援体制組織と関連組織の連携を強化する。
- ・民間企業希望の学生の全員就職を図りキャリアセンターと連携して支援を強化する。

<看護学部・大学院看護学研究科>

- ・低回生から国家試験対策を意識化できる企画を実施する。
- ・学生のアクティブ・ラーニングを推進する学習支援を進めると共に、L Aの導入、学習環境の整備を行う。
- ・臨地実習につながる教育環境を充実し、医療安全を確実に実践できる学部教育を行う。
- ・大学院教育において、社会のニーズに応える高度な看護を提供できる人材を育成する。

<健康科学部・大学院健康科学研究科>

- ・学部完成後の心理学科と理学療法学科、2016 年度に開設した救急救命学科では新たなカリキュラムを展開する。
- ・学生のアクティブ・ラーニングを推進するための学習支援を進める。
- ・理学療法学科、救急救命学科で国家試験対策を推進する。
- ・大学院やキャリア開発事業などで学科の特徴を生かした卒業教育を充実する。

③教育の質を保証する教学改革の実行

- ・認証評価のために大学基準協会の審査を受ける。
- ・各学部学科での自己点検・評価活動を推進する。
- ・教育開発支援センターで、ラーニングコモンズなどを活用した教育支援や教授法開発を展開する。
- ・I R体制を整備し大学改革を推進する。

④修学意欲の維持向上による退学率の減少

- ・休退学を生まない入学前教育および初年次教育プログラムを開発し、学生への働きかけを強化する。
- ・各学科でキャリア教育を実践し、修学意欲を維持向上させ、退学率を減少させる。
- ・初年次教育からキャリア教育を推進する。
- ・学生相談室の利用促進を図る。
- ・学生の意欲を引き出す表彰制度・奨学金制度を充実する。
- ・経済状況の悪化に対応した迅速で適切な奨学金の運用を図る。

⑤教育開発、教授法支援の促進

- ・各学部で授業公開やFD学習会などのFD活動を推進する。
- ・「学生カルテ型ポートフォリオ」の運用を図る。
- ・履修系統図、ナンバリング等の学習支援システムの実践的研究を進め、全学での統一的な運用を図る。
- ・グループ学習やPBL などのアクティブ・ラーニング、ICT 活用教育、反転授業等について研究する。

⑥グローバル化に対応した人材の育成・輩出

- ・グローバル人材を輩出するため、海外体験プログラム、学科を基盤とする海外研修等を実施する。
- ・英語関係科目をグローバル人材育成の観点から見直し、充実する。
- ・醍醐中山団地に留学生を受け入れ、日本人学生と留学生の交流強化を図る。
- ・国際英語学部（仮称）の準備に伴う海外提携を含め、様々なグローバル教育の展開を実施する。

⑦社会人の学び直しや学習ニーズに対応した通信教育課程のプログラム改革を実施

- ・通信教育課程のカリキュラム改革およびコンテンツ・学習環境の整備、充実を図る。
- ・通信教育課程に資格系教育課程や社会人の学習ニーズに対応する科目等履修コースの設置を準備する。
- ・教員免許更新講習、「保育教諭」対応の科目等履修プログラムを実施する。
- ・大学の広報戦略と地域貢献の視点から政策的にエクステンションプログラムを企画し運営する
- ・認定看護師教育課程により高度専門看護職者を養成する。
- ・看護職キャリア支援事業等を通して、看護職者の専門性を高め、地域のニーズに的確に応える事業を推進する。

(3) 研究活動、研究支援の推進

- ・ 科研費申請促進のため、研究計画調書の公開、科研費獲得検討会、専門的助言などの支援を実施する。
- ・ 外部研究費獲得のために様々な施策を実施する。
- ・ 研究水準向上のため学外研究制度を計画的に運用する。
- ・ 研究成果公開を促進する。
- ・ 研究助成制度を効果的に運用する。
- ・ 学術的国際交流を推進する。
- ・ 研究倫理、研究費の適正運用など研究活動におけるコンプライアンス遵守とアカウンタビリティを強化する。
- ・ 研究所・研究センターの事業計画を実施する。

(4) 就職支援の推進

- ・ 新たな就職活動スケジュールに対応した業務を計画する。
- ・ 学内企業説明会への人気企業、著名企業の招致数を増やし、学内企業説明会を充実する。
- ・ 地方自治体と提携した就職対策を行う。
- ・ 就職面談体制を充実し、また、上回生による就活オリターを活用する。
- ・ 就職活動を支援するため、資料と電子コンテンツの充実を行う。
- ・ 早期に就職活動を開始させるためにゼミ担当、学部・学科との連携を強化する。
- ・ 看護・医療系学科では医療従事者および社会人としてのコミュニケーション能力を養成する。
- ・ 児童教育学科では「里帰りの会」などで卒業生のネットワークを構築するとともに、早期離職を防止する。
- ・ 就職のための課外講座とともにブラック企業、労働法規についての理解と知識を深めるセミナー等を実施する。
- ・ ハローワーク、ジョブパークとの連携を強化する。
- ・ 精神的に就活が困難と思われる学生への支援策を実施する。
- ・ 金融企業希望者の支援、公務員試験合格者を輩出する取り組みを強化する。
- ・ インターンシップ参加者数を増やすとともに単位認定型受入企業数も増やす。
- ・ 企業訪問や企業と大学との懇談会等の機会を活用し、求人、学内企業説明会等への招致、インターンシップ受入の拡大を図る

(5) 学生支援の推進

- ・ 女子バレーボール部、男子サッカー部、吹奏楽部など強化サークルの支援を行う。
- ・ サークル活動の活発化のため、サークル連盟の支援や補助金政策の検討を行う。
- ・ 被災地域でのボランティア活動を促進する。
- ・ 山科醍醐地域などで学生主体のボランティア企画を実施する。
- ・ 学生の夢を実現するための「たちばなドリームチャレンジ」を実施する。
- ・ 孤立する学生のための環境を整備し、支援する。

(6) 地域連携の推進

- ・ ポストCOCのための滋賀県および京都府下の自治体や企業、大学と協働で取り組むプロジェクトを検討する。
- ・ 自治体や企業および大学間の連携を推進し、PBLの推進、資格課程の導入等を行う。
- ・ 看護学科や理学療法学科をはじめとする医療系学科では、地域住民を対象とした社会貢献活動をさらに推

- 進し、地域住民の健康増進拠点となるための基盤づくりを行う。
- ・心理臨床センターを運営し、種々の事業の稼働率を向上させ、地域の社会貢献に繋げる。
- ・総合研究センターCOC（地域課題研究）プロジェクトの拡充を図るとともに、外部資金獲得をめざすための検討を進める。
- ・リエゾンオフィス、地域連携センター活動の活性化を図る。
- ・「地域課題研究」などで地域を学修フィールドにした教育を行う。

(7) 志願者と入学者の安定的確保

- ・新学部・学科設置、定員増、学科の競争力維持などの課題に対応した募集活動の方策を検討し展開する。
- ・大学案内、サブパンフレット、受験雑誌・サイト、新聞広告、進学イベント、DMなどで効果的な広告を行う。
- ・SNSなど高校生の利用度が高い媒体で学科の活動内容などの情報を提供する。
- ・オープンキャンパスでは参加者の満足度を高めるため、各学科のガイダンス、ミニ講義、実体験型の企画等の充実を図る。
- ・進学相談会、高校内ガイダンス、教員対象本学主催説明会等を実施する。
- ・高等学校・予備校・塾等の教員との関係強化をめざした訪問などを行う。
- ・ネット出願や新たな試験場など入試改革を行う。

(8) キャンパス整備の推進

- ・20年後のキャンパスプランに基づき、整備を進める。
- ・通学手段の調査、学内動線の見直しを図り、アクセス方法改善を検討する。
- ・アクティブ・ラーニングに対応したラーニングコモンズ等の学習環境の整備を行う。
- ・2017年度、2018年度改革のための施設・設備を準備する。

2. 中学校・高等学校

(1) 文武両道の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

① 「文武両道」の学校づくり

- ・進学実績の飛躍を図る。
- ・クラブ活動全体の活性化に向けて、コーチの配置、学外施設利用補助などの施策を行う。
- ・日々クラブの鍛錬に励みつつも学業を計画的に進められるようTM手帳を活用した指導を行う。

② クローバル化時代に対応した教育プログラムの強化

- ・特別進学(E)コースの進学実績の向上および募集力を強化する。

③ 生徒の心身両面での安心安全と満足度の高い学校生活の実現

- ・学校カウンセラー2名体制により生徒のこころのケアを行う。
- ・学校医等の定期検診、インフルエンザ予防ワクチン接種の校内実施などにより、きめ細かく生徒の体調管理を行う。

④ 落ち着いた校風の継承と更なる規範意識の向上

- ・生徒指導部を中心に生徒の規範意識向上を進め、落ち着いた校風を継承する。
- ・地域からの生徒指導要望への的確な対応、生徒憲章の浸透、安心安全な学校づくりなどを進める。

⑤ 教員の全般的教育力の向上

- ・授業実践研究セミナーや進路指導セミナーへの参加、課外活動に係る各種の講習などへの参加を図る。

⑥教員の専門指導力(授業力)とチーム力の向上

- ・研究授業、生徒による授業アンケートの実施と分析、全教員を対象に行う校長の授業見学、外部教育機関実施の各種教育研究セミナーへの積極的な参加を実施する。
- ・学校主催の教育研究集会を開催する。
- ・コーチング研修を継続的に実施し、一人ひとりの生徒へのきめ細かな指導を行う気風とスキルを育成する。

(2)進学実績で生徒募集域でのトップ50に入る高校の実現

- ・進学アカデミーとの連携により、進学実績目標を達成する。
- ・進学アカデミーへの参加を組織的に働きかける。
- ・年3回以上の学力テストにおいて3年間にわたる学力目標を数値化し、その実現に向けた取組を進める。
- ・進路指導部の主導による系統的体系的な特別講座の編成と遂行に取り組む。
- ・SL(Self Learning)やTM(Time Management)の取組を継続し、自学自習力の育成をさらに進める。
- ・教務部・進路指導部を中心として関係部署が協力し、進路実績に向けた取り組みの具体化を図る。
- ・京都橘大学への内部進学者数を格段に増やす取組を進める。

(3)日本一を目指すクラブの育成

- ・全国大会に出場する機会の多いクラブが日本一になるための支援策を検討する。
- ・新たにESSやサイエンス系統のクラブなどの育成を進め、併せて、既存クラブのさらなる活性化を進める。

(4)募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

①生徒数確保のために募集活動を強化する

- ・学校説明会や「ドリームスクール」などの実施により、志望者を学校に呼び寄せる企画や地域還元事業により、本校の認知度向上を図る。
- ・塾訪問活動の強化、外部での本校主催学校説明会の開催、学校案内、ホームページ、新聞広告などの有効活用を図る。
- ・学力の高い受験生獲得のための特別奨学生制度、自己推薦型のプレミアム入試を継続する。

②国公立進学(S)コースでの複数クラス化の実現

- ・進学実績を高め、Sコースへの志願者を増加させる。
- ・優秀な生徒獲得のための特別奨学金の運用方針を検討する。

③総合進学(A)コースでの一般入試受験者の増加

- ・Aコース生徒の学力を向上させ、一般入試受験者数を増加させる。

④E(特別進学)コースの実施による生徒募集力の向上

- ・留学制度の充実、医療・看護の教学連携等を検討し、生徒募集力の向上を図る。

⑤本校と競合する京都府公立高校の分析とその対応策の検討

- ・塾や関連機関からの情報を適宜分析し、優秀な生徒獲得のための手立てを検討する。

(5)伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現キャンパスの長寿命化および魅力化計画を策定し、実行する。
- ・生徒数の規模拡大、コース改革に対応できる施設の整備を実施する。
- ・サッカーフィールドを備えたグラウンドの整備を開始する。
- ・「京都橘中学校・高等学校ブラッシュアップ検討委員会」による修繕計画をさらに進める。

3. 学園

(1) 学園のブランド力の強化

- ・学園創立 120 周年に向けた広報を強化する。
- ・大学開学 50 周年に向けた取り組みを行う。

(2) ステークホルダーとの関係を強化

- ・卒業生のネットワークを構築し、同窓会活動の充実を支援する。
- ・父母、保護者との連携を強化する。

(3) 社会に貢献する新規事業への挑戦

- ・学園の強みを活かし、医療や幼児教育などの分野での新規事業を準備する。

(4) 教育研究、経営を支える事務局体制の整備と職員育成 (SD) の推進

- ・マスタープランの実行に対応した事務組織再編を行う。
- ・人材育成のため人事評価、職員研修を実施し、職員育成を行う。

(5) 京都橘高等学校と京都橘大学との教学面での連携強化

- ・学園の総合的な発展のために中高大での教学連携、地域貢献を行う。
- ・高大での内部進学を充実する。

(6) 企業、自治体等との関係強化

- ・地方自治体や企業との連携を強め、学園として地域に貢献し、地域に支持される基盤をつくる。

以 上